

第 59 回全国消費者大会の開催にあたって

みなさん

第 59 回全国消費者大会は、「見つめなおそう！私たちの社会～コロナ禍を経て考えたいこと～」を統一テーマに、オンライン主体で開催します。

新型コロナウイルスのパンデミックが発生し、1 年以上が経過しました。コロナ禍によって、私たちの生活は一変しました。それまで当たり前に行っていたことができなくなり、あるいは制限を受ける事態となる中、新たな生活のあり方も模索されるようになってきています。

予防・治療に係る医療が未確立の中で、感染の予防、感染者の治療・保護の最も厳しい現場に置かれたのは、人が人をケアする医療・介護、保育・教育、日常生活を支える生産・流通、小売り事業に携わる人たちでした。とりわけ、雇用が不安定な非正規労働者、派遣・パート・アルバイト労働者、みなし個人事業者など相対的に低所得であった人たちに対して、厳しいしわ寄せ・矛盾が顕在化しました。

私たちは、改めて、コロナ禍以前の社会について見つめなおす機会を得ました。今大会のセッションの企画は、その具体的ないくつかのテーマを取り上げ、顕在化した問題を皆さんと一緒に考える機会としたいとの思いが共通しています。ぜひ、各セッションの講演・報告から、私たちが生きる社会の問題を共有し、学んでいきたいと思えます。

みなさん

今大会は、東日本大震災から 10 年を迎える中での開催となりました。3・11 から 10 年を経過しても、避難者は 4 万人を超え、被災者の生活再建はまだその途上にあります。10 年の歳月を経て、被災者が抱える問題は生活、生業の再建に加えて、精神的な葛藤、地域コミュニティの再編など多様化、複雑化しています。引き続き、被災者・避難者への支援が必要になっています。

また、10 年を経ても、東京電力福島第一原子力発電所の事故は収束の目途が立っていません。東電・政府は、燃料デブリの取出しを前提に、事故炉の管理、汚染水の処理、放射性汚染物質の中間貯蔵管理に追われており、山積する諸問題に国民が納得する対応策を実施できていません。

次期エネルギー基本計画の議論にあたって政府が示した 2050 年の指標では、化石燃料+原発で 3～4 割維持するとしています。これは、化石燃料火力発電・原子力発電、核燃料サイクルを維持することが前提になっています。地球温暖化防止問題が気候危機として認識され、野心的な温暖化防止施策が求められる中、原子力発電・化石火力発電ではなく、省エネルギー・再生可能エネルギーの普及・導入に最大限の政策集中を図ることこそが求められています。

みなさん

コロナパンデミックの経験を経て、私たちは、これまでの社会のあり方を振り返り、そこに生まれてきたひずみ、矛盾を見直す機会を得ました。私たちには、エッセンシャルワークがその社会的役割に相応しい評価を得ることを支持し、その実現のために主体的に関わっていくことが求められています。みなさんにとって、各セッションの報告や問題提起がその一助になれば幸いです。

2021 年 3 月 13 日
第 59 回全国消費者大会
実行委員長 飯田秀男

第 59 回全国消費者大会実行委員会

第 59 回全国消費者大会は、以下の団体が企画し、資金を持ち寄り、本日運営を行っています。

岩手県消費者団体連絡協議会
埼玉県消費者団体連絡会
消費者団体千葉県連絡会
東京消費者団体連絡センター
神奈川県消費者団体連絡会
長野県消費者団体連絡協議会
山梨県消費者団体連絡協議会
特定非営利活動法人 コンシューマーズ京都
全大阪消費者団体連絡会
山口県消費者団体連絡協議会
北九州市消費者団体連絡会

主婦連合会
全国消費者協会連合会
公益社団法人 全国消費生活相談員協会
全国青年司法書士協議会
全国大学生生活協同組合連合会
大気汚染全国測定実行委員会
一般財団法人 日本消費者協会
特定非営利活動法人 日本消費者連盟
日本生活協同組合連合会
日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会
一般財団法人 主婦会館（開催協力、支援をいただきました）
一般社団法人 全国消費者団体連絡会（事務局）

（順不同）